

市 町 村：最上地域全域

タイトル：技術を磨き、ねぎを主力に経営を確立

～若手の力を結集し10億円産地を目指す～

氏名(集団名)：若手ねぎ研究会 会長 畠腹貴宏

1 受賞者の概要

ねぎの栽培技術向上と産地の活性化を図るため、20歳から40歳代のねぎ栽培に取り組んでいる農業者、今後取り組む予定のある若手農業者で平成25年に結成された。

会員数は18名で、技術研鑽を重ね、生産量や販売額の実績を上げて「もがみねぎ」産地を支えている。



若手ねぎ研究会会員

2 特色ある活動

(1) ねぎの生産量及び販売額は最上地域全体の20%以上

当初、会員間には単収の格差があった。このため、育苗管理、病虫害防除、土寄せ等の栽培管理について、座学で学ぶとともに篤農家での圃場研修や会員の圃場巡回等を行った結果、単収格差が解消でき、平均単収は1.3倍に向上した。現在、生産量と販売額は最上地域全体の20%以上を占め、「もがみねぎ」産地を牽引する組織となっている。



育苗管理研修会

(2) 新技術等への挑戦と地域への波及

品種比較試験を行って有利性の高い新たな品種の選定や環境にやさしく省力的な施肥体系を検討し、地域に波及させている。



会員の圃場巡回

(3) ねぎを主力に複合経営を確立

会員の多くは、水稻単一経営等に、新たに自分の部門としてねぎ栽培を導入した。現在、1人当たりの栽培面積は最上地域平均の1.6倍となっており、ねぎを主力品目とした複合経営を確立し、所得向上を実現している。

(4) 雇用の創出と地域貢献

ねぎ部門の雇用者は40名を超えており、地域内の雇用創出に貢献している。また、令和4年10月に開催された「全国ねぎサミット2022inしんじょう」の実行委員会では中心的な役割を担い、「もがみねぎ」の産地PRに大いに活躍した。

3 今後の発展方向

研究会内に、栽培技術研修会、実績検討会、先進地視察研修等を企画・運営する「企画チーム」、新技術の実証圃を設置し、新たな技術確立に取り組む「技術チーム」を設置して、10億円産地の実現に向けて更なる栽培技術の向上と「もがみねぎ」産地拡大を図っていく。